



中学受験で子供の心を壊さないために (1/5 毎日新聞令和のリアルより引用)

今月から5年生との全員面接を始めます。毎年面接で気になる内容があります。それは、中学受験に対する悩みです。5/1付の毎日新聞令和のリアルの記事に「中学受験で子供の心を壊さないために 小児科医からの警告（新百合ヶ丘総合病院発達神経学センター長小児科医の高橋孝雄）」という記事がありましたので、一部引用してご紹介します。

「あなたのため」という親心

中学受験絡みで不調を訴え診察に訪れるのは、多くが小学5、6年生だ。親から返ってくる答えは、<（受験するかどうかは）本人に任せています><「ここまでやってきたのだから受けてい」と本人が言うのです><「嫌なら、受けなくていいのよ」と伝えていますが、虐待をうかがわせる兆候もない。せいぜい「勉強しなさい」「今頑張らないと後悔するわよ」と、わが子を思い、発破をかける「普通の親」だそうです。だが、不登校や暴力、摂食障害など、既に深刻な症状に苦しむ子供も多い。

親は子供に幼いときからそう言い聞かせて、思いをすり込んでいくが、子供を「洗脳」していることに気付いていない。親から褒められればうれしいのが子だ。たとえ親の言いなりにせよ、勉強して成果を上げれば褒められるため、子供は「続けたい」と口にする。だが、無理を続ければ、張りつめた糸が切れるように限界が訪れる。

「子供のため」という親心が子どもを追い詰めていく。問題は「あなたには後悔してほしくない」という言い回しである。相手のことを慮っているように聞こえるが、子供は「従わないと、きっと後悔する」という脅しと受け止める。

あなたのそれ、NGワードです

<いま頑張らないと後悔するよ><後悔させないために言ってるだけなの>

どうだろう。こうしたフレーズに身に覚えはないだろうか。「上司やパートナーから『後悔するぞ!』と言われたらどう感じますか? 非常に不愉快です。漠然とした恐怖感も芽生えますよね」

「後悔するぞ」と子供に迫る親に対して、高橋さんは「後悔することがそんなに悪いことですか?」と問いかける。

私のカウンセリングルームにも、同様の案件でご相談に見える方が多いです。3/13に放送されたNHKクローズアップ現代でも「“教育虐待” その教育は誰のため?」が取り上げられていました。お子様を思う気持ちの在り方を、もう一度見直されてはいかがでしょうか。

お子様への対応でお困りの方は、遠慮せずスクールカウンセラーにご相談ください。

教育相談の申し込み方法

直接またはお電話で、副校長・担任・養護教諭・スクールカウンセラーにお問い合わせください。

関町北小学校 電話：03-3920-1027

相談枠：①9:35 ②10:40 ③11:30 ④13:40 ⑤14:30 ⑥15:30 ⑦16:30

1回45分が基本です。枠外は、ご相談ください。勤務時間：9:30～18:00

5月・6月の出勤予定日 曜日固定ではなく、月曜日、金曜日の変則になります。

5月13日(月), 24日(金), 29日(水) 6月7日(金), 14日(金), 21日(金), 28日(金),